

令和6年度 福祉保健生活環境委員会 県外所管事務調査の概要

◆調査日程 令和6年7月29日（月）～31日（水）

◆調査先・調査内容

①北海道庁（北海道札幌市中央区）

調査内容：在宅医療推進のための取組について

北海道では療養生活を送る患者に在宅医療の選択肢を提供できるように、訪問診療や訪問看護を行う医療機関等の拡大のため、ソフト・ハード両面から支援をしている。また令和2年度からは、委託事業として北海道在宅医療推進支援センターを設置している。

北海道在宅医療推進支援センターでは、既存統計データの収集・整理やデータからは見えてこない実態・課題把握のためのアンケートやヒアリング調査、在宅医療の推進を支援する目的で保健所や市町村から求めがあった場合、コーディネーターや医療アドバイザー等が専門的な知見に基づき助言や支援を行っている。

そのほかにも、道内での情報共有を目的とした在宅医療に関する先行的な取組をまとめた事例の作成、在宅医療推進や人生会議に係る医師等及び住民向け研修、在宅医療に係る同行研修、在宅医療に必要な連携を担う拠点の構成員等を対象とした研修、北海道在宅医療推進支援センター事業の円滑な運営のため在宅医療の実践者等で構成する運営会議を設置し、各種会議等で事業実施方針の協議や情報交換をするなど幅広く取り組んでいる。

今回の視察では、北海道が実施する北海道在宅医療推進支援センター事業、地域医療介護総合確保基金による補助について説明を受け、質疑応答を行った。

<主な質疑等>

- ・道と北海道在宅医療推進支援センターとの関わりについて
- ・在宅医療提供体制強化事業の補助金活用状況について
- ・看護職員等の人材確保の取組について



②苫小牧市役所（北海道苫小牧市旭町）

調査内容：ゼロカーボンシティに挑戦する苫小牧市の取組について

苫小牧市は、2021年に市民や地域、事業者と一体となって連携・協働しながら、2050年までに二酸化炭素（CO₂）の実質排出量ゼロを目指すゼロカーボンシティへ挑戦することを宣言している。また、2022年には、環境省の重点対策加速化事業に採択、2023年には脱炭素先行地域に採択されている。

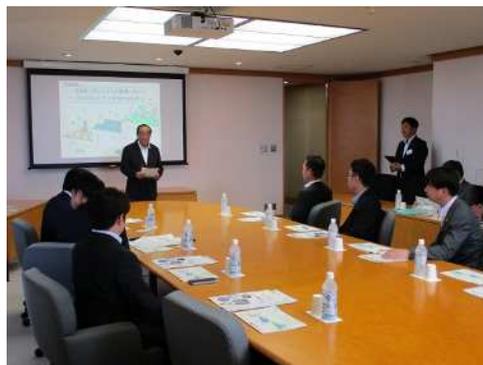
これらと平行して、2022年度には苫小牧市第4次環境基本計画を策定し、2030年度までに二酸化炭素総量を48%削減（基準年2013年比）とする目標を設定するとともに、四つの基本目標を定め、アクションプランとして市・事業者・市民が連携して取り組むべきことを具体的に示している。

また、再生可能エネルギーや脱炭素技術、実証実験プロジェクトを活用した企業誘致や地元企業との連携、雇用創出に向けた方策を検討するために、苫小牧市と商工会議所が事務局となった協議会を運営している。

今回の視察では、苫小牧市が実施する2050年ゼロカーボンに向けた具体的な取組内容や課題等について説明を受け、質疑応答を行った。

<主な質疑等>

- ・太陽光発電設備設置に関する地域住民との合意形成について
- ・CCS（二酸化炭素回収・貯留技術）実証実験に対する市民の反応について
- ・ゼロカーボンへの取組に係る北海道との連携について



③社会福祉法人ゆうゆう（北海道石狩郡当別町太美町、石狩郡当別町弁華別）

調査内容：地域共生型コミュニティ農園及び農福連携について

社会福祉法人ゆうゆうは、前身となる事業所が平成15年に北海道医療大学のボランティアセンターとして設置され、平成25年に現法人が設立された。障がい者地域生活支援事業、障がい者相談支援事業、子育て支援事業等多岐にわたって事業を展開している。

その中の一つである共生型コミュニティ農園ぺこぺこのはたけ及び併設されているレストランでは、調理師等と一緒に障がいのある方が働いている。レストランでは、農園で栽培した野菜をはじめ、当別産・北海道産にこだわった野菜中心のランチを提供している。

ぺこぺこのはたけで1～2か月に1回開催されるイベントは、イベントの準備から開催まで地域の高齢者有志が子どもたちと一緒にっており、地域の方々の交流の場にもなっている。

また、高齢化により農地を手放す人が増えている地区で農地を取得してはじめての野布瀬農園においては、地域住民の協力も得ながら米作り等を行っており、障がいのある方の適性を見極め、生活支援員と相談しながら作業を行っている。

今回の視察では、ぺこぺこのはたけ及び野布瀬農園における取組内容、今後の目標等について説明を受け質疑応答を行うとともに、農園を視察した。

<主な質疑等>

- ・ぺこぺこのはたけの立地について
- ・栽培している野菜の種類、収穫した野菜や米の販売ルートについて
- ・引きこもり等の支援を必要としている人との接点の作り方について

